

遊びの空間



飯沼佳子

幼児の生活で、最も大切なものは遊びです。

おとなにとって、生きていくために働くことが不可欠であるのと同じ比重において、幼児にとっては遊びが重要なわけです。

子どもが、十分自己を出し切って、また、自分のもっている能力を駆使して、遊んでいる時のいきいきとした姿を見るにつけ、子どもを守ってあげるべき立場にあるおとなは、真剣に子どもの遊びについて考えなくてはならないと思います。

子どもが遊べるためには

子どもが十分自分の力を発揮して遊べるためには、どのような条件が必要でしょうか。

1、まず遊びの場が確保されていること
2、遊びの媒介、および発展の要素となる材料があること

3、十分に遊べるだけの時間があること

4、加えて遊びが発展していく契機としてのおとなが存在すること

第一の条件である遊びの場の確保すらままならないのが現在の一般的傾向ですが、第一、第二、第三の条件が豊富に満たされるならば、これだけでも、十分子どもは自分の力でいきいきと遊べるでしょう。

以下で、日々保育にたずさわっている者として、幼稚園での幼児の遊びを、遊びの場との関連においてとらえていきます。

「遊びの空間」という題を編集部よりいただいた時、まず頭に浮かんだことは、自然の恵みをそのままに受けられる広い場所で生活する、わが幼稚園の子どもたち一人一人の姿です。

「遊べない子どもをどうしたらよいか」等の研究がよく行なわれていますが、わが園の場合、入園当初こそ「遊べない子どもをどうしたらよいか」で頭を悩ませますが、一学期も中ごろからは遊べない子どもはほとんどいなくなります。

なぜでしょうか。

考えてみますに、私どもの幼稚園およびその周囲の環境が「遊べない子どもを生み出さない」ような、言葉をかえていきますと子どもにとって魅力に満ちた環境だからではないでしょうか。

サッカーけりで庭を駆けまわっているグループ、野球をしているグループ、なわとびをしているグループ、ひょうたん鬼をしているグループ等、いくつもの遊びが同時になされていてもいきかないの広い庭、それに続く林、園から一步足を踏み出す

と、周囲は、田んぼ、草原、林など、田園にかこまれた場所に位置するのがわが幼稚園です。

このように、先に書きました十分遊べるための条件の、第一、第二が備わっていることが、遊べない子どものいない最大の要因と思われる。

しかしながら幼稚園での遊びは、漫然と子どもを遊ばせておけばよいというものでは、もちろんありません。教育計画を子どもの遊びの中で実現させていかななくてはなりません。広い遊び場に恵まれている本園では、積極的に戸外で子どもを遊ばせることに重点をおき、保育計画を立案しています。

自然との出会い

園およびそれをとりまく環境は、幼児にとってよいものではありませんが、ここで生活する子どもたちも、園を離れますと、コンクリートの壁、建てこんだ家々、激しくゆきかう車、という状況下で家庭生活を送るものが大ぜいいます。

ですから、入園当初の子どもたちは、作られた遊具があり、庭として整えられた園庭での遊びには比較的スムーズに入っていますが、林に入ったたり、作られた遊具のない野原ではとまどい、そこでは遊べません。

林や野原に行きたがり、そこで遊べるようになるまでは、教師

の積極的なリードがどうしても必要です。玩具とか、ブランコ、スベリ台とかいった作られた遊具で遊ぶことしか経験してこなかった子どもたちは、自然の中でどうやって遊んでいいのかわかりません。

まず、教師が子どもと共に、林や野原を、繰り返し繰り返し歩くことから、自然の中で遊びを発見させます。ある子どもにとっては、野に咲く花々を見つけることが、またある子どもにとっては、昆虫の卵を見つけることが、また他の子どもにとっては、木に登って木をゆすることが楽しみになります。作られた遊具の場合、ある一つの遊具の遊び方には限度がありますが、自然の中では無尽蔵といつてよいほど、いろいろなことをして遊べます。

子どもが、自然の何かで遊べるようになったら、しめたものです。子どもにとって、林に入ること、野原に行くことが楽しみとなるわけです。教師が子どもを自然に近づける近づけ方で大切なことは、「そこで遊べる何かを子どもが見つけれられるような」リードです。

自然の中での子どもの遊び

澄んだ空気が、はてしなくひろがる青空、右左に雪を抱いた山脈のもとでの、つくし、たんぽぽ摘み、鬼ごっこ、かけっこ、ひばりの舞い降りるのを待って息をひそめ、ひばりの姿を追いかける

遊び、うっそうとした木々の茂みの中の虫がし、木陰にごぎを敷いてのままごと、日ごとにあぎやかになり、明るさも一段と増した木々の紅葉の中の落ち葉拾い、どんぐり拾い、きのこさがし、葉を落とし、寒々とした林の中の探検ごっこ、雪合戦、雪だるま作りと、四季おりおりに正しくめぐってくる自然の変化と、そこでの遊びは、子どもたちにとって感嘆の多い日々です。

初めて氷を見つけた晩秋の朝、宝物でも持つように、氷を手にして、ハンカチにくるみ大切に持って歩く子どももいます。

北アルプスの峰々に初雪が降った朝、口々に山の白さを報告にくる子どもたちの目の輝やきを、いつまでも失わせたくないと思えます。

どんぐりをポケットいっぱい拾い、かぶっていた帽子にもいっぱい拾い、まだ足りなくて息せき切って保育室にとびこんで、袋を要求する子どもたちの真剣な姿、かぶと虫を捜して、何時間もう根気よく林の木を一本一本丹念に調べて歩いている男児のむれむれなど、どの子どもも、どの子どもも、園での生活は夢中の連続です。

春から秋にかけての気候のよい時には、つとめて園外に出ます。園やその周辺では得られない、自然での経験を園外保育を通して得ることで、さらに子どもたちは、自然の中で遊ぶ楽しさを増します。

園外保育の主なもの

春——おたまじゃくし、ふな等をとること。つくし、たんぽぽ摘み。ことりの声を聞くこと……。

夏——野の花摘み。草原での遊びを十分味わうため、園内で使う遊具、たとえばままごと道具、ボール等を持って、一日がかりで外で遊ぶこともあります。男児は木に登るのが好きで、何十メートルもの大木のとっぺんまでするとよじ登る子どももいます。

秋——きのことり、どんぐり拾いに、これもまた、一日をついやして出かけます。また、近くに幼児が登るのに手ごろな山があり、年齢に応じて、一部バスを使い、子どもだけで、歩く遠足をします。年長児は、往復約八キロの山道を、約二時間三十分で全行程を歩きます。毎年の例ですが、全部歩けたというところで子どもたちは大いに自信がつき、その自信が、生活の他の面でプラスとなってあらわれます。

冬——山国の信州のこと、きびしい寒さが続き女児などは室内にこもりがちですが、男児は寒さをもものとせず、戸外でよく遊びます。雪でも積もろうものなら、園庭の高低を利用してそり遊びに夢中になります。雪が少なくてそりがすべれなくなると、年長児の場合ですが、集団で雪を集め、そりのすべる道に雪を手でたたいてははってゆき、長い時間かかってそりがすべれる準備を

します。

雪を集める子ども、それをそり道にたたいてははってゆく子どもと、十数人の子どもが、そり道を作るという一つの目的に向かって、目を輝かせ、息せき切って動く姿は、「遊び」を通して小集団のうまい動きを、まざまざと見せられる思いです。

今まで、水平的な空間において自然の中での子どもの遊びを見てきましたが、子どもは、ちょっとした高さの所でも登るのが好きです。

男児の場合など、園外保育に連れ出しますと、教師の側の園外保育の目的がどんなものの場合であれ、男児自身の園外保育の楽しみの多くは、登れる木を捜してなるべく高く登ることにあります。

近くに、小高いちょっとした山があり、そこには、松本の町が眼下に、一望のもとに見られる所があります。

そこへ園外保育で行きました。松本の町がすぐ目の下に見られる所まで来ますと、子どもたちは思わず立ちつくし、そこにひろがる風景に見とれました。こういった垂直的なひろがりにおける幼児の遊びもまた、経験させることが大切です。

自然の中での幼児の遊びには、驚き、心地よさ、感動が伴う

ことが多々あります。それがまた、いきいきとした遊びをよびおこすものともなります。

からだを動かすことが好きな子どもたちにとって、広々とした場所、自由に、思い切り動きまわった遊びができることは、子どもの心にも潤り知れないよい影響を与えていることでしょう。

幼児期の子どもに大切なことは、健康に恵まれたからだを作ること、感受性豊かな心を養うことです。自然の中での遊びはこの二つを十分に満たしてくれます。

人工の遊具の場合、どうしても遊び方に限度が出てきますが、

自然物の中での遊びは、

①子ども自身が考えなければ、遊べない

②遊びの内容、種類は、子どもの能力、好みにより、数限りなくある

③遊びの場が広いため、身体全部を使つての遊びが中心となり、したがって運動量が多くなる

④仲間どうして遊ぶことにより、遊びがより深まり、集団で遊ぶ楽しさ、集団の中での遊びのルールがおのずと発達することなどが特徴としてあげられます。

園庭と林とで展開される遊び

かくれんぼ

年長児になるとかくれる場所の範囲もぐんと広くなります。園舎のまわり、林の中、林の向う側とたくさんあり、新しいかくれ場所を見つげながらかくれることが、一つの楽しみにもなります。一方、鬼になった子どもは、四方に散った友だちを捜すだけでも運動量は大きなものとなります。

かくれている方も、園舎の陰から木々の間を、鬼に見つからないよう、息をひそめ、小さくなって移動してあるく時の緊張と、あとにつづく、見つからなかったという成功の喜びは大変なものです。

林が園庭に続いてあることで、鬼ごっこに例をとって述べましたように、林と庭を一つにして遊びが展開されることがよくあります。林に庭に、保育室にと、子どもが分散して遊びますので、子ども一人一人がゆったりとした場所を自分の遊び場とすることができます。

遊びの空間と幼児の生活全般とのかかりあい

遊びの空間がたくさんあることが、園生活全般にわたつて子どもにどんな影響となって現われているかを最後に考えてみます。

①活動量が大きく、遊びでエネルギーが十分発散できる。また、子どもが大声で遊んでも声が騒音とならず、したがって、騒音からくるいらがなくてよく生活が送れる。

②遊びの場が広く、数多くの遊びができ、子どもが分散して遊べる。

どんな子どもでも、自由に自分のやりたい遊びができ、自分を發揮できる場所がある。

③発見、驚き、喜びの多い毎日である。

恵まれた自然の環境の中では、何らかの発見は数多くあり、小さい発見でも子どもには大きな喜びにつながる。

このように、自己を出しきった遊びが園生活の中でできるため、本来は気が小さく、友だちや教師になかなかなじめないような子どもも、スムーズに自分の心をひらいて友だちや教師に接することができ、教師に話のできない子どもは皆無です。

幼稚園の生活が楽しくてたまらないというのが園の大多数の子どもの気持ちです。病気の時も幼稚園に来るといって親を困らせる子どもが多いようです。

目の輝きにはりがあり、いきいきとしているのが、また、わが園の子どもの一般的な傾向です。目を輝かせ、息せき切って生活をしている子どもが大勢いるというのが、一言でいったこの園の特徴のようです。

(松本市青い鳥幼稚園)

みどり会主催夏季研修会

申込案内

○人員 一〇〇名(定員になり次第メ切り)

○会費 六、五〇〇円

宿泊費 五、五〇〇円(二泊三日六食分) 参加費

一、〇〇〇円

○申込方法

1、参加費一名一、〇〇〇円を申込用紙(左記の形式)

にそえて、六月三十日までにお申込み下さい。

2、参加費は不参加の場合もお返しいたしません。

○申込先・東京都文京区大塚二一一一お茶の水女子大学

附属幼稚園内みどり会研究会宛

・振替申込の場合は口座番号東京九九〇八五番

(文京大塚四郵便局)

○申込形式(はがき大)(各人一枚のこと)

○氏名

○勤務園名

○住所又は連絡先

○希望分科会 第一希望

第二希望

○宿泊日に○印

23日	夕
24日	朝 昼 夕
25日	朝 昼 夕
26日	朝 昼

但し 二十三日夕食より参加の方は二、八〇〇円

二十四日昼食希望の方は、二五〇円超過になります。